

第4章

-この戦略を通して目指す熊本市の姿-



水前寺・江津湖

熊本市の現状と課題を踏まえ、熊本市が目指す 2050 年の望ましい姿を描き、2030 年の目標を設定しています。

第4章の概要について

☆熊本市の目指す姿を設定しています！

構成

概要

4.1 基本理念と短期目標 (P77)

基本理念「自然のめぐみに感謝し、人と自然がともに生きるまち、熊本を、みんなで実現する」を掲げ、その実現に向け、「2030年目標」を掲げています。

4.2 熊本市が目指す2050年の望ましい姿 (1) 市全域 (P78) (2) みんなで未来に残したい熊本市の自然環境 (P81)

「市全域」と「みんなで未来に残したい熊本市の自然環境」の2つの視点で、熊本市が目指す「2050年の望ましい姿」を設定しています。



熊本市が目指す2050年の望ましい姿

第4章 この戦略を通して目指す熊本市の姿

4.1 基本理念と短期目標

私たちは、将来の世代にわたり「生物多様性のめぐみ」を享受し、安心して豊かな暮らしを送ることができるように引き継いでいく必要があります。

そこで熊本市が目指すべき方向の基本的な考え方として「基本理念」を掲げます。

【基本理念】

「自然のめぐみに感謝し、人と自然がともに生きるまち、熊本を、みんなで実現する」

基本理念が浸透し、実現した時の熊本市の理想的な状態を「2050年の望ましい姿」として具体的に表現します。

また、世界では、2050年目標である「自然と共生する社会」を実現するために、2030年目標として「自然を回復軌道に乗せるために、生物多様性の損失を止め、反転させるための緊急の行動をとる「ネイチャーポジティブ(自然再興)」の考え方が掲げられました。

そこで、本市においても、この新たな世界目標の実現に向け、多くの主体を巻き込みながら、私たちの暮らしの基盤となる「生物多様性」の保全に取り組んでいくため、世界目標の対象期間である2030年までの短期目標を設定します。

【2030年目標】

熊本の魅力である清らかな地下水や、豊かな緑といった生物多様性のめぐみを持続可能なものとするために、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる『熊本市版ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現』

4.2 熊本市が目指す2050年の望ましい姿

(1) 市全域

市内では、ムササビやフクロウがすむ森やミナミメダカがすむ河川や水路など、様々な生物やそのすみかが守られています。

市街地や住宅地などでは、地域で大切にされてきたお寺や神社などとともに、古くから残されてきた樹林や巨木など身近な自然が受け継がれているだけでなく、公園や学校、事業所、庭、街路樹などとともに、豊かな緑のつながりが創り出され、「森の都」を思わせる街並みが広がっています。

里地里山や田園地域では、作物が豊かに実り、人工林、竹林などは利用されながら、適切に管理され、こうした環境で様々な生物が育まれるとともに、美しい景観が形成されています。また、イノシシやニホンジカ等の野生鳥獣が適切に管理され、野生動物との距離が適切に保たれています。

湧水や河川から連なる小さな水路や小川には、トンボ類やサワガニ、ミナミメダカなどの多様な生物が生息し、こうした生物が自由に移動できるようつながりが形成されています。こうした水辺は豊かな湧水とともに大切にされ、初夏にはホタル類も飛び交います。そこで、子どもたちは生物にふれたり、水遊びをしたりしています。こうした地域の自然とそれに根ざした歴史・文化を活かした地域づくりが浸透しています。

また、経済・社会は環境に配慮したものとなり、生態系の維持と経済・社会活動の両立が図られています。さらに、生物多様性の持続可能な利用を考慮した事業活動が行われることで、経済と環境の好循環が生み出され、地域が活性化し、将来にわたって生物多様性に富んだ環境を守る取組を支えています。

市民は、こうした環境の中で、身近な自然や生物を季節の変化とともに感じています。熊本市は、都市でありながら豊かな自然環境とそのめぐみにあふれ、人々は四季折々の祭りや行事、地域でとれた旬の食べ物などを楽しんでいます。

そして、人と人、人と自然がつながりあい、いきいきとした心豊かな暮らしが営まれ、そうした「熊本」の姿が魅力的なものとして輝いています。

コラム 22 市街地にホタルが舞う～電車通りの近くでゲンジボタルに出会える奇跡～

「えッ！」と思われた方もいらっしゃると思いますが、本当のことなのです。毎年 5 月から 6 月にかけての夜、電車通りから藻器堀川右岸を上江津湖方面に 20 メートルほど行くと、ゲンジボタルの飛翔を観察することができます。砂取橋を過ぎて左岸沿いを進むと、県立図書館南側一帯に広がる芭蕉園からゾウさんプールにかけて多くのホタルたちが舞っています。さらに旧有吉邸跡から旧神水苑、神水川一帯もゲンジボタルが発生しており、素晴らしい水辺の景観を織り成しています。

このような光景がひろがるのも、江津湖の豊かな水の恵みによるものです。

実は、江津湖のゲンジボタルは、周辺の都市化、湧水量の減少、水質の悪化とともに、昭和 50 年代に数が少なくなりました。ホタルがこのように市街地で見ることができるようになったのも、初夏の風物詩であるホタルと子どもの時から身近に接してきた、地域の人たちが、清掃活動やホタルの幼虫の育成、ホタルの嫌う光をできるだけ遮るなど、懸命に保護活動に取り組んできた結果によるものなのです。

地域で暮らす人たちが、自ら育てたり保護したりしたホタルが生息する水辺は、自然と美しい環境となります。このように、ふるさとのホタルを復活させようという取組は江津湖周辺の地域のほか、地域おこし・まちづくりの活動と連携し、八景水谷公園、西浦川、谷尾崎川、成道寺川、河内川、柿原、龍田、島崎、池上、松尾、池田、秋津地区など市内各地に広がりました。

活動には、大人から子どもたちまで多くの人たちが携わっています。これを読んでいる皆さんの中にも活動に参加され、飛び交うホタルに感動し、癒された方もいらっしゃると思います。

ホタルを復活させようという活動には、移入による遺伝子のかく乱や、もともといなかった地域への導入などの課題があります。これらについても、生物多様性の視点からも地域の皆さんがともに考え、行動しながら、豊かで美しい水辺のシンボルであるホタルたちが、私たちの身近に暮らせるような環境を未来につないでいきたいものです。

(執筆協力者: 本田公三氏・学校法人昭徳学園 九州動物学院 副学院長)



写真提供：林田 創 氏

4.2 熊本市が目指す 2050 年の望ましい姿

(2) みんなで未来に残したい熊本市の自然環境

① 金峰山系

シイ林、カシ林など豊かな森林が守られ、人工林や竹林は必要な管理が適切に実施されています。豊かな湧水や山系から始まる川は、山麓部の水田を潤し、豊かな里の水辺の環境が地域の人たちの手で守られています。

市街地からも望むことができ、豊かな自然が残る熊本市の山の象徴でもあります。石畳の道・霊巖洞等の歴史・文化的な資源や、豊かで多様な環境が活かされ、登山のほか、自然を楽しみ、学び、体験できる場として人々に親しまれています。

② 立田山

コジイ林など自然度の高い森林が守られています。森林だけでなく、豊かな湿地の環境が残され、人々の連携した取組によってこうした環境が維持・保全されています。

市街地の近くにあって豊かな環境が守られていることで、多様な生物の重要なすみかであるとともに、泰勝寺跡などの歴史・文化的な場所と一体となって、日常的な散歩やお花見などで自然に親しみ、また、野鳥・植物観察会などを通して、自然を体験・学習できる場となっています。

③ 雁回山(木原山)

多様なシダ植物やムササビなどの動物がすむ自然豊かな森林が守られています。自然環境に関する調査や研究が行われ、情報が蓄積されています。

木原不動尊など信仰や歴史的な背景のある場所として活かされているとともに、身近なハイキングや野鳥・植物観察会などを通して、自然を体験・学習できる場として市民に親しまれています。

④ 水前寺・江津湖

地域住民や市民活動団体など様々な人々の連携した取組により、豊かで清らかな湧水や水辺の生態系が守られています。

熊本市の地下水の象徴として、市民に大切にされています。そして、水前寺成趣園とともにその魅力が発信され、市の内外から多くの人が集い、熊本市の水の豊かさ、歴史・文化を実感し、水辺で休息したり遊ぶことのできる観光の拠点となっています。

⑤ 白川・緑川

生物多様性に配慮した河川管理によって、河川の連続性が確保され、様々な生物のすみかが守られています。

こうした川を通じたつながりが認識されるとともに、生物の観察などの活動も広がる場となっています。

⑥ 有明海(干潟)

自然の海岸と広大な干潟が良好な状態で保全され、シオマネキなどのカニ類や、ムツゴロウなどの魚類など、多様な生物のすみかとなっています。春や秋の渡りの時期には多くのシギ・チドリ類などの鳥類がやってくる環境が保たれています。